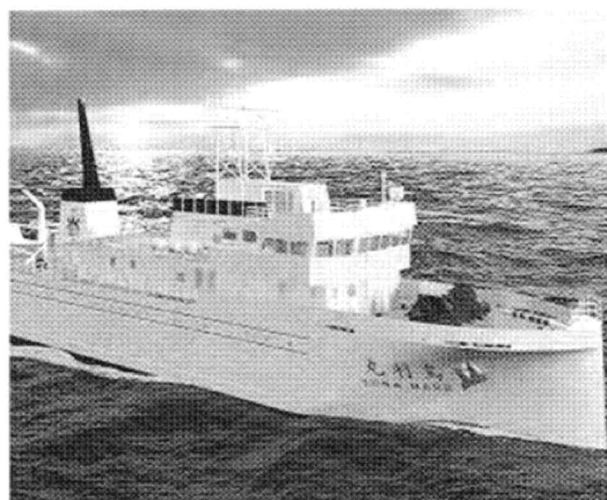


コックピット型の操舵室

鳥羽商船高専の新練習船



鳥羽商船高等専門学校（三重県鳥羽市）は2025年春をめどに新しい練習船を導入する。老朽化した現在の練習船にかわるもので、飛行機のコックピットのように1人で席に座って操船するタイプの操舵（そつだ）室を導入する。近年の海運業のトレンドに対応できる人材を育てる。

1994年8月に完成した現在の練習船「鳥羽丸」の名称を継続して使

災害時、自治体支援も

用する。新しい鳥羽丸は、「か」と話す。

設計段階の全長が約56メートル、幅は約10メートル。総トン数は約370トン。現在の鳥羽丸の全長約40メートル、幅約8メートル、総トン数244トンをそれぞれ上回る。12月に岡山県の造船会社で起工式を行う。総工費は明らかにしていない。

新造船は操舵室をコックピット型にする。最近の船舶は立ったまま複数の人員で操船することが多いが、1人で座ったまま複数の操作をこなす操舵室を取り入れるなど働き方改革を進める。同高専商船学科長の窪田祥朗教授は「こうした練習船を導入するのは大学を含めても珍しいのではない」と話す。

鳥羽商船高専が導入する新しい練習船「鳥羽丸」の完成イメージ

鳥羽丸は全国に5つある商船高専の練習船のうち、唯一太平洋岸を母港とする。「外海に出ても揺れが小さくなるように船の先端部を海面に対して垂直な形にする」（船長の齊心俊憲准教授）

これまで陸上の学校内で実施してきたポンプ類の修理実習ができる広いスペースも船内に設ける。学生の居住スペースも現在の6〜8人用の大人数から4人で過ごす部屋に区分けし、女子学生の増加にも対応できるようにする。

導入後は海上で自律運行なども研究する予定だ。大規模災害時には鳥羽市、伊勢市、志摩市といたった自治体への支援活動にも使うことにしている。